

熊大通信

vol. **57**
2015 SUMMER

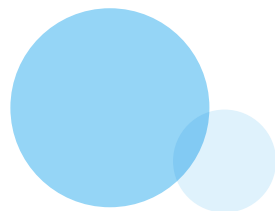
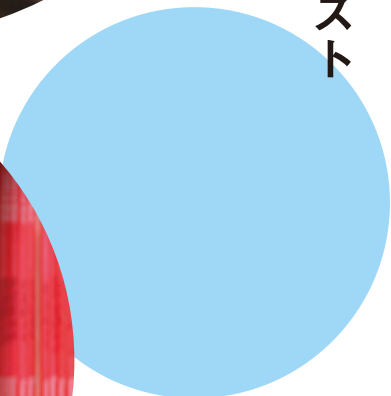


特集Ⅱ

熊大の魅力を発信！
『熊大歌留多』イラストコンテスト

特集Ⅰ

「熊本×大学」で学ぶ。
熊大生の学びを支える7人の情熱



熊本大学広報誌 熊大通信

* 皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

[発行] 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

[編集] 熊大通信編集委員会
大日方信春 / 委員長 法学部
大野 龍浩 / 文学部
松永 拓己 / 教育学部
岡本 洋一 / 大学院法曹養成研究科
光永 正治 / 大学院自然科学研究科
緒方 公一 / 大学院自然科学研究科
谷口まり子 / 大学院生命科学研究部
首藤 剛 / 大学院生命科学研究部
田中 尚人 / 政策創造研究教育センター
西川 洋子 / マーケティング推進部広報戦略ユニット

[制作] 株式会社 談

表紙 / 特集1 の取材に協力してくれた熊大の学生さんたち。

旅する熊大 /

雲仙天草国立公園でも名高い景勝地・天草・松島にある「沿岸域環境科学教育研究センター 合津マリンステーション（写真中央）」の目の前に日本一干満差の大きい海として知られる有明海が広がっています。文部科学省より教育関係共同利用拠点として認定され、学内外の学生の臨海実習をはじめとする環境教育や海岸動物についてのさまざまな研究が行われています。



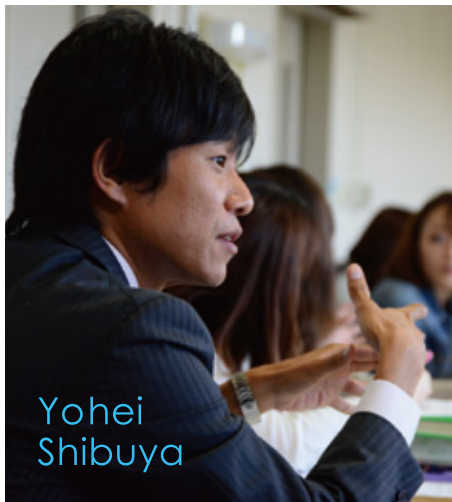
熊大通信

vol. 57
2015 SUMMER

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 「熊本×大学」で学ぶ。
～熊大生の学びを支える7人の情熱
- 11 研究室探訪 さまざまな病気とかかわる甘くない糖「糖鎖」、
そのメカニズム解明が、病理解明の可能性へ
大坪和明研究室
- 13 特集Ⅱ 熊大の魅力を発信！
『熊大歌留多』イラストコンテスト
- 15 国際交流 インタビュー
熊本大学から世界へ 松山 真吾さん
世界から熊本大学へ ユキコ・ナビラ・ブトリさん
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ





Yohei
Shibuya



Hideaki
Katsura



Atsushi
Makino

特集 I

「熊本×大学」で 学ぶ。

熊大生の学びを支える7人の情熱



Shogo
Misumi

世界一と謳われるカルデラ、豊穡の海、緑深い九州の山々…自然豊かな熊本県にあってさまざまな先端的研究教育を行う熊本大学。自ら課題を見つけ、考え、解決するという、高校までとは違う大学ならではの授業を、実際の講義、ゼミ、フィールドワークに参加して紹介します。シラバスだけでは分からない、熊本大学ならではの学びの“今”と“リアル”をお伝えします。



Naaki
Haruta



Yukio
Ando



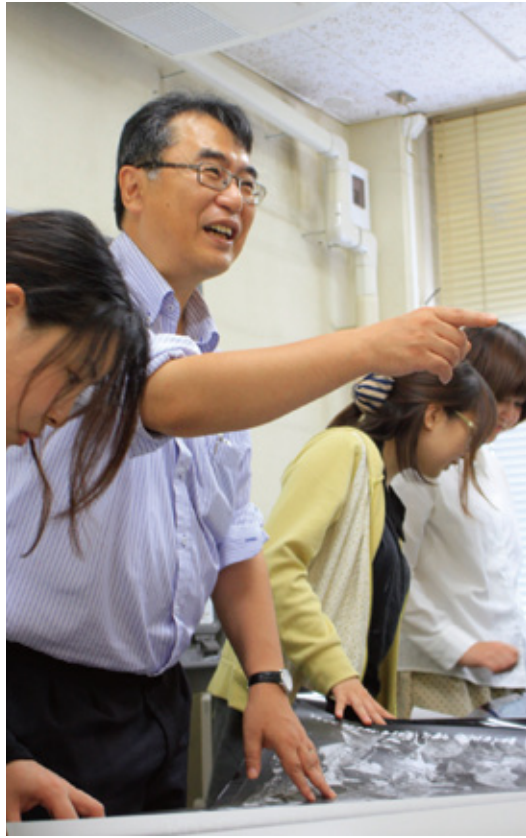
Yasuhisa
Henmi

牧野 厚史 教授

地域社会学

「地域」という
現場に学ぶ

「水の国くまもと」「らしく、 川の流れと地域社会も調査しています。」



以前は琵琶湖博物館の学芸員だった牧野教授。「阿蘇の山を水源とする熊本の水と人との関わりも調査していきたいですね」

質問し、考えさせ、 次の課題を導き出すセミナー

過疎化や高齢化など、地域の課題に向き合う地域社会学。牧野ゼミでは、地域を訪ね住民に話を聞き、地域の生活調査を行ってききました。今日は学生による調査報告発表です。

発表の合間、牧野教授からは学生全員へ次々と質問が投げられます。「燃料革命って何?」「この新旧写真を比べると何が違

う?」「お金にならない農業の価値って何?」「こんな問答を通して学生たちと報告書を読み解き、次の調査の課題を見つけしていきます。

普段はかかわる機会が少ない地域住民と直接話すフィールドワークや、報告書を読み解く作業を通して、「学生たちには、判断力を養ってほしい」と牧野教授。さまざまな角度から物事を見て判断する力を付けるには、「本や人から聞いた知識ではなく、現場に出て直接話を聞き、自分の生活や体験に照らし合わせる」ことが大事」と語ります。

人間関係を探求するのが、 社会学

「普通、学問は個々のテーマを深く掘り下げる。でも社会学は逆に人間社会に関わることを総合的にとらえる。人間関係の学問なんです」と牧野教授。「人は悩む生き物ですが、悩みの多くは人間関係。社会学が悩みを解くことに役立てばすばらしいですね。そのためにも「判断力」が大切だと牧野教授は話します。

熊大赴任前は琵琶湖博物館の学芸員だったという牧野教授は、「滋賀県や近隣の水源が琵琶湖なら、熊本の水源地は阿蘇の山々。



文学部 牧野 厚史 教授

滋賀県立琵琶湖博物館学芸員を経て、2011年より現職。地域調査のほか熊本の地下水保全やCOC事業(地(知)の拠点大学による地方創生推進事業)でも活躍。

そこから河口までには水と人との多様な関わりがある。それも調査しています。水に深い縁のある牧野教授。熊本ならではの、水と結びついた社会学にも注目が集まります。



牧野教授の講義の特徴は、学生に考えさせる質問が多いこと。新旧の航空写真を比べ「昔も今も同じなのはどこ?」一川だよ。今も昔も人は水があるところに住むわけ」



「調査では準備していた質問通りに進まないことも多いんですが、横道にそれた話から重要なことが聞き出せたりします。そんな「ライブ感」が生かされます。牧野先生の講義は、質問を投げかけて学生に考える時間をたくさん与えてくれるのが特徴ですね。」

4年 木下 佳人さん

「100年後」に伝えるために。 今、フィールドワークで地域へ。

今、まとめておかないと
伝わらない

春田教授と学生たちが待つ公民館に、地域住民の方々が続々と集まってきました。館内に入つてすぐ、全員にす

つしりと厚みのある冊子が配られました。タイトルは「熊本大学教育学部 日本史研究室調査報告書 阿蘇山中央火口丘群 北麓のムラと牧野」。春田教授とゼミの学生たち、そして他大学の教授らも参加した総勢約50名の調査スタッフは、2年をかけて調べまとめた阿蘇市元黒川地区と黒川牧野の調査報告書です。

「今、地元の方々が見えていることをまとめておかないと、次の世代に伝わらない。調査結果を百年後、二百年後の歴史資料にしたい」と春田教授が話し、報告会開始。内



〈左〉報告会の部屋には、次の調査に参加予定の3年生の姿も。〈右〉この報告書は「地域密着の歴史学」の賜物。100年後、200年後に歴史資料となるものです。



春田教授、学生、住民の皆さん。区長さんは「私たちの先代の苦勞も記されたすばらしい本ができたと感謝しています。住民の皆さんには、この冊子を家宝として次の世代に残してほしい」と挨拶。

容は地区内の社会組織や生業、信仰などあらゆる分野に及び、住民の方々からは、時折感心したようなよめきが上がります。

大学だからできる社会貢献

「調査の目的は、世代を超えて受け継がれたムラの記憶を記録し、地域づくりに活かすこと。地域の財産であり、社会貢献にもなります」と春田教授。調査先が決まると、事前学習、質問項目作成を経て現地調査に入ります。「元黒川地区の場合は5日間、合宿形式で行いました。」

学生たちも、調査地域の年配の方々と同じ合い話す作業をとっても楽しんでいるそう。「このゼミで学んだ手法を活かし、学生たちが教師となった時には、赴任先の地域の歴史を掘り起こし、子どもたちのよい教材としてほしいですね」



「将来は、一つの歴史資料から、何が起こったのか想像していく、そんな力を子どもたちに与えられる日本史の先生になりたいです。春田先生はとてもまじめで研究にストイック。学生のことも親身になって考えてくださいます」

修士2年
内田 開さん



教育学部 春田 直紀 教授

18年間に及ぶ熊本の地域に関する歴史調査を実施し、主に聞き取りによりムラの社会や景観などを研究。授業においては、学生50人規模で現地調査を行っている。

ゼミでは、話したくなるのを、
じっとこらえて黙っています。



20名を超える学生数は、ゼミとしては大人数。司会から考える時間を与えられ、ディスカッションで盛り上がるゼミ室。



まじめに取り組む学生が多く、教育者として幸せと澁谷准教授。「あえて言えばもっと野心を持って。それだけの実力はあるから」

学生主体、先生は脇役

「本件に関してはYの尊厳や国家の利益を損なったXの取材方法が正当性を欠くものだと考えます。」

「ありがとうございます。ほかに意見は？」
「Xとの関係はY自身の意思で決定できたはずなので、Xの行為がYの人格を蹂躪したとは言えないのでは？」

この日のテーマは、「違法性」の理解。自分の理解には欠点やデメリットがないか



「丁寧に分かりやすく、面白い、先生の刑法の講義を受けて、ぜひゼミも先生のもっとでと思いました。ゼミの中で、先生がテーマの核だと考えていらっしゃる部分とずれてしまうこともあります。みんなで活発な議論を交わって考えを深めたいです。」

3年
北御門 晋作さん

を、実際の判例に対し個人の意見を重ねていくことで検討すること。ゼミ参加者は司会進行を含め3年生です。「学生が沈黙すると教員としてはしゃべりたくなるのですが、そこをこらえるのが私のスタイル。自由な意見を出してもらっていいので、意見が出ない時に司会がどう切り抜けるかも勉強ですから」と澁谷准教授。それでも、議論が止まると、「憲法で保障された表現の自由とYが損なったものだけを天秤にかけるのか、それとも、手段の相当性や社会通念なども考慮するのか、立脚する立場を明確にして」とアドバイス。澁谷准教授の言葉が風穴を開け、学生から新たな意見が出されていきました。



「決着したことも自分の視点で疑ってみるとか、ゼミを通して物事を多面的にとらえられるようになりました。私はサークルに入ってなくて先輩後輩の交流がなかったのですが、ゼミで後輩の面倒を見る経験ができたこともよかったです」

4年
江島 舞さん

このゼミには、アドバイザーとして4年生も参加しています。「事前に、司会役にレジュメ作成や議論の進め方をアドバイスします」と4年生の江島舞さん。
「犯罪や刑罰に対しては感情に流されがちですが、法学部生には、論理的に考え、双方の立場に立って納得のできる結論に至る道筋を模索する能力が必要。それは社会でも求められる能力だと思います。社会から求められる「論理的思考」をゼミで身に付けた学生たちは、法曹界や自治体、民間企業へと巣立っていきます。」

論理的に考え 結論に至る能力を培う



法学部 澁谷 洋平 准教授

熊本出身。熊本県立済々黉高等学校卒業後、熊大入學。熊大大学院、広大学院を経て、熊本大学法学部着任。熊本大学生え抜きの先生。

野外で生き物を直接観察できる、 この環境が、すばらしい。

生き物が好きでたまらない

「昨日、今日の実験に使うチゴガニを白川河口で捕まえておいたんですよ。見ますか？」逸見泰久教授に連れられて合津マリンステーションの実習室に入っていくと、3つの円柱型の透明容器の中で、たくさん

のチゴガニが元気に動き回っていました。

逸見教授の研究テーマの一つが、干潟にいるスナガニ類の行動。スナガニの仲間のハクセンシオマネキは、オスが大きなハサミを振って求愛や威嚇をすることで知られています。「チゴガニもオスがハサミを振りま



「自然にはまだわからないことがいっぱいあります。それを解き明かそうという意欲のある人に来てもらいたい」と逸見教授。

す。メスがオスのハサミの大きさ、動きの高さや速さの違いにどう反応するのか、100匹以上のメスを使って実験します。生き物の観察や実験が好きでたまらない、少年のような逸見教授がそこにいます。

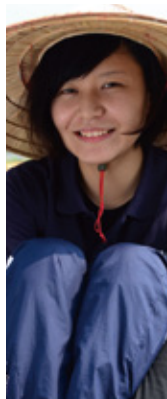
観察十実験十分析 II 「役立つ力」に

野外で実験が始まりました。この日は逸見教授に修士2年の河野容子さんが参加。二人は少し離れた場所に陣取り、親指の先ほどしかないチゴガニのメスを二匹ずつ板

の上に放し、どちらのハサミに何秒で向かうか地道な記録を続けます。

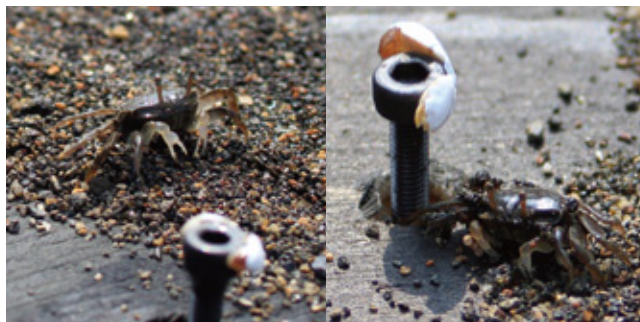
「生物の研究の基本は観察」。野外で生物をじっくり観察する、それが逸見教授の研究室の特色です。「カニの研究が何の役に立つのか」という声もありますが、観察を通して得られた仮説に対し、実験を計画実行、得られたデータを分析する。それをまとめて学会で発表し、できれば英語で論文にする。その経験はどんな仕事に就いても必ず将来役に立ちます」

※合津マリンステーションは、P1、2に写真掲載



「小さい頃から生き物が好きで、動物の研究がしたくて逸見先生の研究室に来ました。好きなことをやらせてもらって恵まれているなと思います。将来は生き物や環境にかかわる仕事に就くのが夢。逸見先生は研究が大好きな学生思いの先生です」

修士2年
河野 容子さん



スナガニの一種、チゴガニの求愛行動を研究する実験装置。上下に動く2本のクギに、サイズのちがうオスのハサミを接着。クギは動きの速さと高さを変えられるようになっています。ここにチゴガニのメスを一匹ずつ放し、どちらに寄って行くのか記録します。「これ、工学部の先生に作ってもらったんですよ」



沿岸域環境科学教育研究センター
逸見 泰久 教授

有明海・八代海に生息する甲殻類、貝類等を対象に研究を行う熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授として、熊本に密着した沿岸域生物の研究に取り組んでいる。

映画引用で「病気の想像体験」と 「長い講義にメリハリ」を。

何を重点的に覚えるべきか、
きちんと伝える

学部4年生を対象とした講義。この日のテーマである「多発性硬化症」は脱髄性疾患の一つで、中枢神経系脱髄に分類される病気です。「中枢神経系脱髄の中で圧倒的に患者数が多いのは多発性硬化症。ほかにBaïo病、ADEM(急性散在性脊髄炎など)がある。Baïo病は国家試験には出ないけれど、ADEMには線を引いておいて」。安東由喜雄教授の言葉に学生たちが「斉にペンを動かし、一瞬、教室全体がざわつきました。

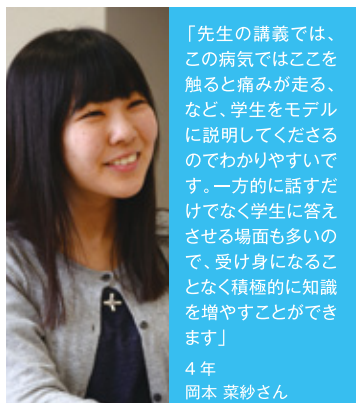
「最近の学生は1年生から専門分野の勉強で忙しいんです。短い時間で、医学生として覚えるべきことを、どうきちんと教えるか、いつも考えています」と話す安東教授。学生時代、ラジオのDJをしていた経験を活かし、限られた時間で伝えるべきことを伝え、しかも聴く人の

集中力を切れさせない工夫をしています。苦しんでいる人に寄り添ってみたいと思う人をくみ上げたい

90分授業の最後に登場したのは映画「ロレンツォのオイル」のスライド。「ロレンツォは脱髄性疾患を発症した実在の男の子。息



国家試験の問題を引用し、問題に示された症状から何を読みとりどう診断を下すか、丁寧な説明も。



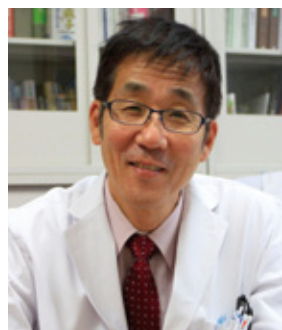
「先生の講義では、この病気ではここを触ると痛みが走る、など、学生をモデルに説明してくださるのでわかりやすいです。一方的に話すだけでなく学生に答えさせる場面も多いので、受け身になることなく積極的に知識を増やすことができます」

4年
岡本 菜紗さん

子の難病を治せる医者がいないと知り、両親は自力で治療法を探します。ついに見つけたのが、ある配合をしたオイル。このオイルは神経学の本にも載っていると、安東教授は講義を締めくくりました。

「患者にとって一番つらいのは、自分の病気を研究する人がいないこと」と安東教授。映画を引用するのは学生に病気を想像体験してもらったためと、長い講義時間にメリハリをつけるためです。安東教授の取捨選択による講義内容が学生の集中を高めます。

「神経性疾患は治せる時代になっています。苦しんでいる患者に寄り添ってみたい、治したいと思う人を授業からくみ上げることでできた」。安東教授の講義にはそんな思いが込められています。



大学院生 生命科学部
安東 由喜雄 教授

「地方から世界への情報発信」を合言葉に家族性アミロイドポリニューロパチー研究で活躍。執筆しているエッセーはシリーズ4作目に。熊大出身。

「実学として使わなあかん」 関西弁+熊本弁で軽妙な講義。

次への発展性を 引き出すために

朝8時半。続々と集まってきたのは、薬剤師や創薬を目指す学生たち。現代社会における感染症の感染や発症パターンを知り、対処する知識を培う授業です。



「チーム医療」が重要視されつつある中、「医師にコメントを求められ、的確な返事ができる薬剤師が必要」と三隅教授。「現代の感染症対策では、社会状況の大きな変化に対処する必要がある。それはこの授業でしか扱わないよ」

例えば予防接種。「近年、予防接種の危険性はかりが騒がれ、

「使える」知識を学生たちへ

もちろん、三隅教授の人気の理由は単に楽しい語り口にあるわけではありません。「この知識はこつこつ風に使えと、次への発展性を引き出すきっかけになるよつ教えています。」

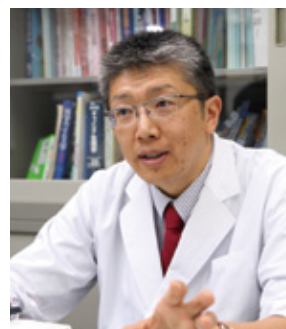


「卒業生も含め学生の名前は、積極的に覚える」という三隅教授。学生は、授業中に突然名前を呼ばれ質問されることも。

人類に与えてきた恩恵が忘れられがち」と三隅教授は言います。「キミらもな、家族を持つたらここで学んだことを実学として使わなあかん。感染すれば何割か死ぬそれをわかつて予防接種を受けるのと、お医者さんが言つから受けるのとは大きくちやうで。」
「衛生とは、文字通り命を守ること。学生たちが薬のプロになるのは当たり前前で、大事なのは、人の命を守ること。にどれだけ懸命になれるかです」。だからこそ、三隅教授の講義には学生が自分のこととしてとらえやすい現実味ある言葉があふれているのです。



「この授業は、これから社会でも重要になる知識。三隅先生はテレビ番組や動画を引用したり、学生の興味を引き出し記憶に残る話し方をしてくたさるので人気です。熱い先生ですよ！」 左から、3年 諫山 達弥さん／桐原 知江さん／濱口 大志さん／江藤 比華留さん／久保田 樹さん



大学院生命科学研究所
三隅 将吾 教授

衛生薬学、生化学、AIDSに関する研究に取り組む一方で、授業にe-learningやマークシート式試験の導入などの工夫も。独特の関西弁と気さくな性格が学生に人気。熊大出身。

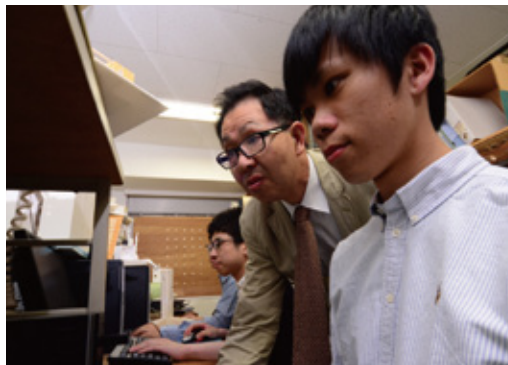
空や雲を見ながら学べる。 熊本で建築ができる学生は幸せです。

**建築は図面3割、
建物の環境理解こそ大切**

「百人の建築家がいたら、同じ条件でも百通りの設計ができる。絶対的な『正解』のないものに『答え』を与えるのが、建築」という桂准教授の持論は「建築は図面3割、あとはその土地の経済、歴史文化、風土、自然：要するに背景にあるもの。それを徹底的に調べて突き詰めるべき」。なぜなら「建築が、地域の産業やコミュニティと結びついていないと、建物を建てても長く残らない」から。「大都市の学生はビルばかり見て建築を学ぶ。でも、熊本の学生は、空や雲を見ながら、山や緑の中で育てられる。僕自身、たまたま森林組合の仕事を受注したおかげで熊本の木に育てられました。」

**質問に始まり、
質問で終わる講義**

建物の環境について突き詰める桂先生が、講義で大切にしているのは、「予習」です。「僕は年度の初め、最初の講義までにまず教科書を3回読むように、という指示を



個々の設計指導でも「経済、歴史、文化、自然、全てを徹底的に調べて」と指導します。



東北大震災被害者のための「みんなの家」づくりにボランティアで参加。

桂先生の講義は学生の質問で始まるのです。「同級生の質問を聞いて、自分もそれ、分かってなかった、と気づくこと

出す。先生から一方的に説明されたことは覚えられない。だから、とにかく読ませて、分からないところの質問をどうぞ」と。



「桂先生の演習で設計したものを学生同士で評価し合った。高校でそんなことしたことなかったで、すごく驚いたけど、楽しかったですね。」
左から、4年 江口 信さん／修士2年 筒井 総一郎さん／研究生 菊地 健太郎さん



大学院 自然科学研究科
桂 英昭 准教授
工学部の優秀教育者表彰(Teaching Award)で受賞歴多数。県内各地の設計を手掛け、熊本アートポリスアドバイザーを務めるなど、地域との関わりを大切に活動。熊大出身。

研究室探訪

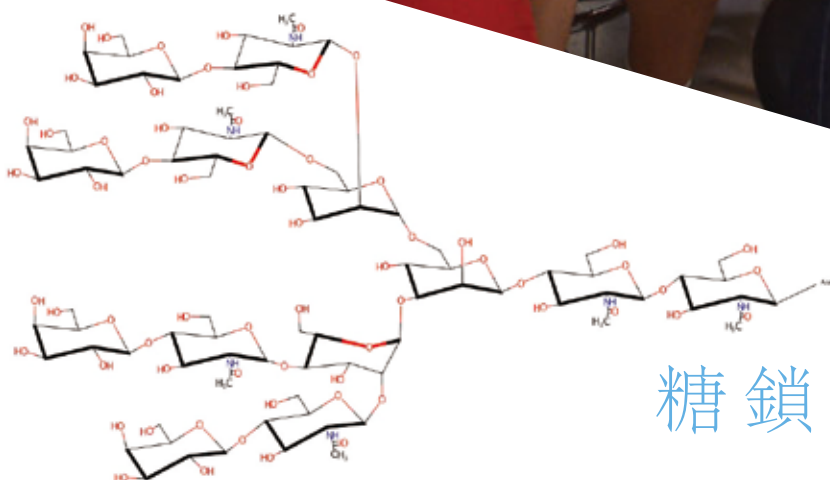
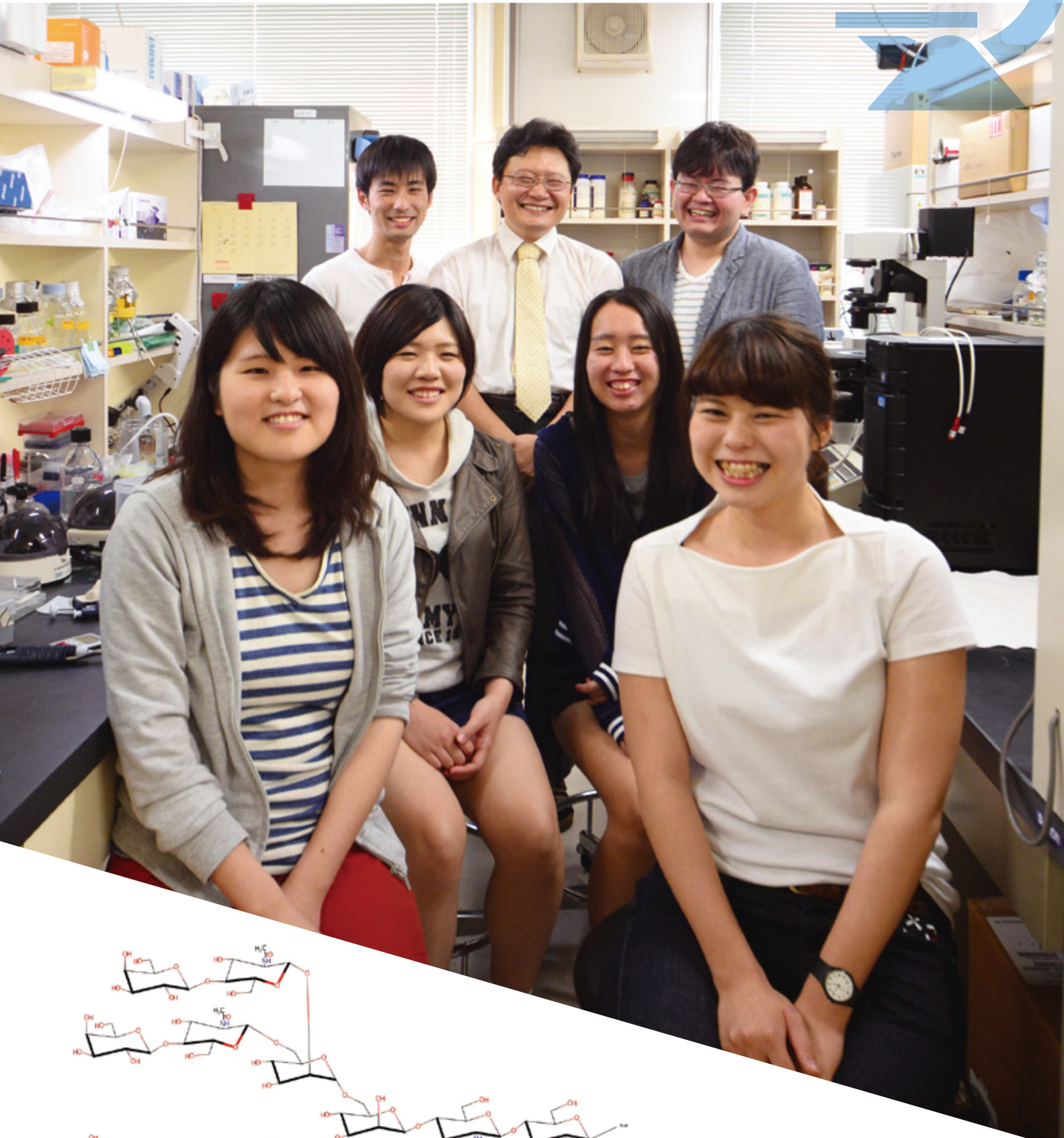
大坪和明研究室

大学院生命科学研究所

先端生命医療科学部門

医療技術科学講座

生体情報解析学



糖鎖の化学式

さまざまな病気とかかわる甘くない糖「糖鎖」、そのメカニズム解明が、病理解明の可能性へ

よく知られているのに、「分らない」

糖というと甘い砂糖を連想しますが、「実は、私たちの生命活動を支える重要な、甘くない糖」があるんです。私たちの体をつくる60兆個の細胞には、この甘くない糖が鎖状につながった分子が存在しています」と大坪和明教授、その分子「糖鎖」が、大坪和明研究室の研究テーマです。

「糖鎖は、さまざまな疾患の病態に応じて変化することが古くから知られており、病気の診断指標として用いられてきました。ところが、糖鎖の変化の生物学的意味を理解しようとする研究はあまり発展してこなかったんです」と大坪教授。研究室では、基礎研究として糖鎖の情報解読を進めると同時に、糖鎖の変化と病気のかかわりを探り、

そのメカニズムを解明することを目指しています。「DNAの研究などから原因が解明され治療法が生みだされてきた病気もありますが、まだわからない病気もあり、それらに糖鎖がかかわっていることがわかってきています。大きな可能性を秘めた糖鎖研究に「やりがいがあります」と大坪教授は言います。

真剣に考える人は、だれもが「専門家」

「研究において、答えにたどりつくために一番大事なのは知識や技術ではなくやる気です」。やる気は、研究への愛着と興味と好奇心から生まれると大坪教授。学生時代のアルバイト先で、学生だった大坪教授もミーティングに呼ばれ意見を聞

かれることがあり、「その時教授に、研究の分野に専門家はいない、強いて言うなら研究に情熱と興味を持って真剣に考えている人が専門家、君もこの研究に興味があるなら意見を述べる権利がある、と言われて。それが研究者になるきっかけでした」。そんな経験を経た大坪教授は、まだ研究室に所属しない学部1年生にも、興味があるなら研究室に来るように伝えていきます。

実際に研究室に所属するのは院生と学部4年生。「変化した糖鎖を元に戻すことが病気の治療になるのではないかと考えた院生の研究が、結構うまく行っているんですよ」。研究で培った問題解決能力は社会に出て必ず役立ちますと、力強く語ってくれました。

lab's data

【大坪研究室データ】

- 研究テーマ
 - ・疾患糖鎖生物学
 - ガンの転移を引き起こす糖鎖機能
 - 糖鎖異常により生じる糖尿病

・糖鎖が有する根源的な生物情報の解読

□メンバー
大坪和明教授、大学院生2人、学部4年生4人

□OB・OGの進路
熊本大学大学院 ※大坪教授は平成26年度着任

Interview



大学院保健学教育部
博士前期課程1年 藤井 柝作さん (左)

学部3年生の冬に研究室の説明があり、大坪教授の研究の内容と話しぶりの両方が魅力的でこの研究室を選びました。研究は、思い通りにいかなくても、「頭の中で変な物質が出ているかも(笑)」と思うくらい、なぜなんだ…と考え続ける、その時間も楽しいと感じます。検査に引っ掛からないドーピングを見分けることに糖鎖を用いることができる可能性があり、この研究室で培ったことをスポーツ医学に将来生かせたらと考えています。

大学院保健学教育部
博士前期課程1年 前田 賢人さん (右)

関西出身の大坪教授はいつも明るい方で、研究室も明るく研究がしやすい環境です。看護師や検査技師などを目指す人が来る保健学科での研究は、基礎研究を行う理学分野と臨床研究を行う医学分野の、いわば懸け橋的な存在。基礎と臨床をつなげ、病気の解明や治療につながる研究ができればと考え、日々がんばっています。

密着！大坪研究室

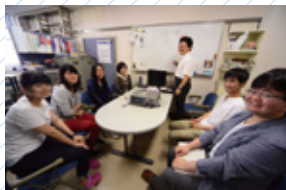
日々の実験やミーティングのほか、学生生活の思い出づくりも満載の研究室の毎日をご紹介します。



2015.5
軍艦島へ、世界遺産になる前に一度見ておこうと計画し日帰り旅行。思い立ったら計画し実行するのが大坪研究室スタイル。



2014.9
人吉へ泊りで旅行。メインイベントは球磨川でのラフティング。そのほか、国宝・青井阿蘇神社も訪ねる研究の発展を祈願！



毎週月曜日
教授のほか院生、学部生も全員参加し、毎週月曜日にはミーティング。論文の抄読会や研究プロジェクトの話し合いを行う。



日々の実験
ガン細胞の異常糖鎖を検出する実験中。このほか、細胞に糖鎖をつくる遺伝子を入れて実験したり、バクテリアを使った実験なども。

特集Ⅱ 熊大の魅力を発信！

『熊大歌留多』 イラストコンテスト

「熊大歌留多」の取り組みは、熊本大学の魅力を再発見し、学内外に広く発信することを目的に始まりました。平成26年度は、平成24・25年度に実施した読み札コンクールで選ばれた44句に対するイラストを募集し、本学の学生、教職員、附属学校の児童・生徒が描いた170作品を超える作品が集まりました。審査の結果、34作品が絵札として決定し、残りの10句については、引き続き学内からイラストを募集し、「熊大歌留多」の完成を目指します。今回は、絵札として決定した34作品、さらに特別賞を受賞した17作品とあわせて、魅力ある全51作品をご紹介します。



ろ

漱石も 八雲も君も 誇りなり

学生（教）美咲希



読み札に対応する絵札に 34作品が決定！

※各賞ごとに50音順で掲載。イラスト下の作者名については、（ ）は学部名を表し、希望者はペンネームを掲載しています。
※所属、学年は、26年度のもの

優秀賞

み 未来を担う若人の
背中を後押し
学長講義



学生（工）宮元 薫平

ね 練り歩く
五高健児が
赤ふんで



学生（自）ジョージ

て 伝統ある
五高とおニューな
ライブラリー



学生（教）美咲希

い 偉人の小径
サインカーブに
紅葉降る



学生（工）加藤 杜馬

あ 赤門を
くぐりて今日も
志を極む



学生（工）林原 孝樹

特別賞

と 寅の刻
附小伝統
うさぎ狩り



附属小6年・畑中 伶文

と 寅の刻
附小伝統
うさぎ狩り



学生（教）美咲希

と 寅の刻
附小伝統
うさぎ狩り



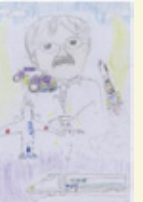
学生（自）Becky

し 心身を
鍛錬します
阿蘇遠歩



職員・アナゴン

か 軽いぞ
強いぞ
熊大マグネシウム



附属小4年・青木 完爾

か 軽いぞ
強いぞ
熊大マグネシウム



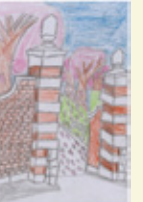
附属中2年・小嶋 琳佳

い 偉人の小径
サインカーブに
紅葉降る



附属中1年・書川 佐和子

あ 赤門を
くぐりて今日も
志を極む



附属小4年・松浦 歩志

絵札には
選ばれなかったけど
まだまだ
あります！

魅力たっぷりの絵が集まりました

平成24・25年度の読み札募集に続き、平成26年度はイラストを募集した『熊大歌留多』。たくさんの応募作品の中から選ばれた魅力あるイラストを御覧ください。

入選

<p>さ 様々な個性がキラリ 熊大附属特別支援</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>け 健児くん「熊大なう」のキャラクター</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>く 草萌ゆる武夫原頭に集う友</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>き 北里の魂つけて 医を学ぶ</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>か 軽いぞ強いぞ 熊大マグネシウム</p>  <p>学生(工) 有光 史弥</p>	<p>お おばちゃんの優しさが沁みるぜ 北食堂</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>う 海を越え 中国とつなく 上海オフィス</p>  <p>学生(文) 安藤 早紀</p>		
<p>と 寅の刻 附小伝統 うさぎ狩り</p>  <p>附属小6年・徳永 理土</p>	<p>つ つないでく ユア・フレンドで 子どもの未来</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>ち 父が通った赤レンガ いっかが私も 熊大生</p>  <p>職員・アナゴン</p>	<p>た 立山山 社が見下ろす 黒髪キャンパス</p>  <p>学生(自) KIKYO</p>	<p>せ 生命の未来を紡ぐ 発生研</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>す 水産資源の保全を学ぶ 干潟フェスタ</p>  <p>学生(教) 村上 亜由美</p>	<p>し 心身を鍛錬します 阿蘇遠歩</p>  <p>学生(工) 佐藤 瑞記</p>		
<p>む 紫の絆でつながる 七学部</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>ふ 楓の木のゆれる葉音と 大合唱</p>  <p>附属小6年・坂井 結衣</p>	<p>ひ 100年の学び刻みし 五高記念館</p>  <p>附属小4年・西 美咲</p>	<p>は 春の日にアゴラでしばしの日光浴</p>  <p>学生(教) 村上 亜由美</p>	<p>の 遺されし細川の宝 永青文庫</p>  <p>附属中1年・鏡 そよ</p>	<p>に 入神致用 現代を究め 未来を翔る熊大</p>  <p>学生(工) 吉海 雄大</p>	<p>な 難病に光明見出す エイス研</p>  <p>附属中1年・柚原 紅子</p>		
<p>わ ワクワクで育む意欲 高大連携</p>  <p>職員・I子</p>	<p>3 浪漫と誇り 湛えて動く 機械遺産</p>  <p>学生(自) 岡 勇志</p>	<p>3 るんるんこぼとの園児 げんきよく</p>  <p>学生(文) なる</p>	<p>り りっぱだなあ 附幼のくすの木 あおぎ見る</p>  <p>附属小6年・尾田 悠</p>	<p>5 ラブ熊大 卒業しても 我が誇り</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>よ 世の為に 韋編絶つまで 没頭す</p>  <p>学生(文) 安藤 早紀</p>	<p>も 百年を水面に刻む 漕艇部</p>  <p>学生(自) 本 幸世</p>		
<p>れ 煉瓦色 赤く燃ゆるは 学徒の心</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>3 るんるんこぼとの園児 げんきよく</p>  <p>学生(工) 鈴木 龍一</p>	<p>り りっぱだなあ 附幼のくすの木 あおぎ見る</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>り りっぱだなあ 附幼のくすの木 あおぎ見る</p>  <p>職員・はる</p>	<p>5 ラブ熊大 卒業しても 我が誇り</p>  <p>附属中2年・吉良 鳳乃佳</p>	<p>ほ 本荘の 緑豊かな 病院に 命をつなく 心ありけり</p>  <p>附属小4年・辻本 知優</p>	<p>ふ 楓の木のゆれる葉音と 大合唱</p>  <p>学生(教) 村上 亜由美</p>	<p>ひ 100年の学び刻みし 五高記念館</p>  <p>学生(教) 美咲希</p>	<p>は 春の日にアゴラでしばしの日光浴</p>  <p>附属中1年・遠藤 桜花</p>



熊本大学から世界へ



日本学術振興会 特別研究員 PD
大学院薬学教育部 遺伝子機能応用学
松山 真吾さん

トップクラスの研究者と 時間を共有する醍醐味

松山真吾さんが米国に留学したのは
大学院薬学教育部博士後期課程時代
の2014年。日本学術振興会の「頭
脳循環を加速する若手研究者戦略的
海外派遣プログラム」で、米国ジョー
ジア州アトランタにあるジョージア
州立大学(熊大の国際共同研究ラボが
設置されている)にて約10カ月の研
究生活を送りました。

2014年1月から12月初めまで、
INSTITUTE FOR BIOMEDICAL SCIENCES(IBMS)
の Jian-Dong Li 先生のラボで、細菌感染によ

る中耳炎や呼吸器疾患に対する治療薬の開発
をテーマに、細胞や動物を使った発症メカニズ
ムの解析や既存の薬の評価などを行いました。
米国で知ったのは、トップクラスのジャー
ナルに論文を発表するような研究者に直接
会って学べる醍醐味。また、米国の情報のアツ
プデートの早さにも刺激を受けました。エボ
ラ出血熱が問題になった時、アトランタには
患者の受け入れ病院があり、話題になって一
週間後にはもうエボラに関するセミナーが開
催されていました。この2つのおかげで、研
究をより楽しいと思えるようになりました。

留学中、みんなが時間になったらきつちり
その日の仕事を終わらせて帰宅する、そんな
研究スタイルの違いも印象に残ってい
ます。

現在は同じ研究を
続け、年内にはまた
アトランタに戻って
不足する部分のデー
タを取り、論文にま
とめる準備をしてい
るところ。将来は企
業に入って創業に携
わりたいという思い
もあるし、大学の基
礎研究を続けること
にも魅力を感じてい
ます。



セミナーや研究活動において日々議論を重ねるIBMSのメンバーと。一番右が松山さん

国際交流 レポート (3月～5月分)

3/1

平成26年度「グローバル教育の
推進に係る海外FD研修」を
実施(6日まで)
本学教員の英語による教授
力・コミュニケーション力の向
上を目的として、本学協定校
のカナダ・アルバータ大学へ教
員7人を派
遣して研修
を実施し、
5月26日の
学内報告会
にて成果を
発表しまし
た。



3/13

ハワイ大学マノア校短期語学
研修「NICEプログラム」修了式
ハワイ大学マノア校で実施さ
れた短期語学研修に本学から
6人が参加
し、現地学
生との交流
を深めつつ
3週間のプロ
グラムを修
了しました。



3/16

ボルドー大学(フランス)とのダ
ブルディグリープログラム調
印式
本学の大学間交流協定校であ
るフランス・ボルドー大学との
博士後期課程ダブルディグリー
プログラム
調印式が同
地で開催さ
れ、本学か
ら谷口功学
長(当時)ら
が出席し
ました。





世界から熊本大学へ



生まれたのは熊本 インドネシアと 日本の掛け橋に！

「日本を学び、インドネシアの発展に寄与」。お父さんが熊大留学中に熊本で生まれたというユキコ・ナビラ・プトリさんの夢は、二つのふるさと
の希望と友好の一翼を担う存在になることです。

父が熊本大学工学部の留学生だった時に生まれ、4歳まで熊本で過ごしました。生まれた時に雪が降っていて、両親がよい記念になると名付けてくれたのが「ユキコ」という名

大学院社会文化科学研究科 文化学専攻
日本・東アジア文化学研究コース
博士課程前期1年 ユキコ・ナビラ・プトリさん



熊本市国際交流会館でのイベントで民族衣装を着て。中央がナビラ・プトリさん

前。幼いころから、ずっと日本の大学で勉強したいと思っていました。
これまで研究生として1年間を熊本大学で過ごし、今年の4月から大学院博士課程に進みました。現在、日本語、日本の社会文化、農業など、民俗学をテーマに研究しています。特に関心があるのは、日本の農業や農業文化の保全について。その理由は、私の国・インドネシアが農業国だからです。私は日本とインドネシアの農業や農村文化を比較研究し、日本から学ぶべき点を明らかにすることを目標にしています。
インドネシアにいた時と違い、毎日自分で食事をつくり、自転車で通学する毎日。物価も高いですが、熊本の人はやさしいので、暮らしやすいと思います。大変なのは日本語。特に漢字が難しく、先生や友だちに助けてもらうこともよくあります。
将来の夢は、インドネシアで、日本語や日本の農業、社会文化を教える先生になること。インドネシアの発展と、日本との友好関係の発展に寄与したいと思っています。

3/21

日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2015に参加
(24日まで)

中国の北京・上海で開催された日中大学フェア&フォーラムに参加し、日中の大学及び企業と大学交流や産学連携に関する意見交換を行いました。

4/3

日本語研修コース・短期留学プログラム開講式

日本語研修コースで4人、短期留学プログラムで31人の留学生の受入を開始しました。



5/12

駐日ナイジェリア大使が原田信志学長を表敬訪問

ゴッドウィン・ステア・アボ駐日ナイジェリア特命全権大使以下4人の訪問団が原田学長を表敬訪問しました。

◎ KUMADAI TOPICS
(本紙19ページ)を参照

5/24

熊本留学生交流推進会議主催 ウェルカムパーティー

熊本県内の大学から250人を超える留学生および日本人学生が参加し、サークルによる出し物などを通して交流を深めました。



卒業生 ジャーナル

GRADUATES'
JOURNAL



本学の卒業生たちの“今”に迫る

「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍する

先輩たちのこれまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じて

精励するその姿をご紹介します。

理学部

早く一人前の技術者になり、
人の役に立つ製品をつくりたい!



藤田 和希

Kazuki FUJITA

株式会社ミットヨ
広島事業所 商品設計

理学部理学科 平成22年度卒/
大学院自然科学研究科博士前期
課程理学専攻 平成24年度修了

昭和63年生まれ。鹿児島県徳
之島町出身。鹿児島県立徳之
島高等学校から熊本大学へ入
学し、熊本大学大学院を卒業。
自分の成果を目に見える形で
残したいと思い、設計者の道へ。
趣味は、バイク・スノーボード。

熊大のココがイイ!

先生方や切磋琢磨できる学
生たち、そしてチャンスに
恵まれているところ!

物理の魅力に目覚め
物理教師を目指した高校時代

高校時代の恩師の授業がおもしろく、物
理が好きになりました。自然現象だけでなく、何気ないことも物理現象に基づいており、それらを解き明かしていくことが物理
の魅力だと感じていました。そんな物理の
魅力を伝えたいと思い、高校の物理教師を
目指していました。

国内外の学会にも参加
チャンスに恵まれた研究生生活

熊本大学の学生寮で暮らしていました。
キャンプやスポーツ大会など楽しい行事が
多く、何より仲間と暮らす日常生活が良い
思い出になりました。大学3年生から研究室
に配属され、研究に打ち込みました。国内
の学会だけでなく国際学会にも参加するこ
とができ、チャンスに恵まれた研究生生活
を送ることができました。

現在はメカ設計担当
畑違いでも物理の知識を生かせる

現在、測定機メーカーである株式会社ミツ
トヨで測定機のメカ設計を担当しています。
大学時代の研究は量子光学だったので、現在
やっていることは畑違いになりますが、製品の
評価や実験などはこれまでの経験が生きて
ることが多いです。早く一人前の技術者になり、
自分で設計したものが世の中の役に立つこ
とを夢見て、日々業務に取り組んでいます。

医学部

一つひとつ経験を重ね、
いつかは海外で看護師に!



宮崎 みどり

Midori MIYAZAKI

長崎みなとメディカル
センター市民病院
集中治療部

医学部保健学科看護学専攻
平成21年度卒

昭和62年生まれ。長崎県長崎
市出身。長崎県立長崎南高等
学校卒業。熊本大学卒業後は
地元長崎へ戻ることが海外留学の
夢のためにニュージーランド
へ。現在も海外で働く夢のため、
日々奮闘中です。

熊大のココがイイ!

九州各地、たくさんの友
だちができました。

看護師へのきっかけも
海外経験から

高校2年生の時にニュージーランドで1カ
月のホームステイを経験してから、海外で
働くことばかり考えていました。ホストマ
ザーが看護師だったこともあり、滞在中に
言われた「看護師が向いているのでは？」
という声で、いつかは海外で働く看護師
になろうと決意しました。

同じ志を持つ仲間と
励まし合い楽しんだ学生生活

1、2年生のころは誰かの家に集合して、
ご飯会をしたり、時にはみんなで阿蘇方面
まで旅行したり、アルバイトにも精を出し
ていました。3年生の後期からは長期間の実
習が始まり忙しくなりましたが、同じ境遇
の中みんなで励まし合い、ストレス発散と
称して飲み会やカラオケ、小旅行に繰り出
してました。

卒業後一度働くも夢を忘れず
ニュージーランドに2年間留学

卒業後2年間は総合病院のICUで勤務し
ていましたが、海外留学の夢を忘れること
ができず、ニュージーランドへ留学し介護
の仕事をしながら2年間滞りました。そ
の後は帰国し、現在の職場で看護師復帰
しました。縁あって再びICU勤務となった
ため、再び急性期看護の経験を積んでいます。

文学部

歴史への想いは尽きず
永青文庫研究センターへ



後藤 典子

Noriko GOTO

熊本大学文学部附属永青
文庫研究センター

法文学部史学科国史専攻
昭和53年度卒

昭和31年生まれ。宮崎県都城市
出身。宮崎県立宮崎大宮高等
学校卒業。夫と娘2人。長女は
結婚し、7月に2人目の孫が生ま
れます。現在の夢は、若い
研究者のために永青文庫の目
録を作ることで、そして、その
研究者となるべき学生を育て
るお手伝いをする事です。

熊大のココがイイ!

熊本大学に寄託されている6
万点に及ぶ永青文庫の歴史
資料。貴重な第一級の資料を
実際に手にとって研究できる大
学なんて他にありません!

「伝統ある熊大で歴史学を」
夢を持ち続けて進学

「歴史学は、未来のための学問だ」と信じ
ていたので、その歴史学を「伝統ある熊本
大学で学びたい」という夢は、中学校の頃
から高校3年間も一貫して持ち続けていま
した。

歴史学の第一線の指導教官のもと
学んだ日々は今も宝物

憧れの熊本大学で、専門の先生方に出会
えたことが、とても幸せなことでした。第
一線の指導教官のもとで「学問」としての
歴史学を学べたことは、その後の私の史観
の基礎になっており、宝になっていると思
います。充実した学業生活を送ることがで
きたので、卒業の時、先生に「悔いはい
りません」と申し上げたのを覚えています。

貴重な永青文庫資料の
目録作りと研究にいそむ日々

大学卒業後、結婚して専業主婦になり、
子育て中心の生活でした。歴史をやるには
やはり古文書が読めなければいけないと、
子どもが学校に行き始めたあと本格的に附
属図書館の川口恭子先生の教室で勉強を続
けてきました。永青文庫研究センターが設
立され調査に社会人枠で参加し、センター
の仕事をお手伝いさせていただくことにな
りました。現在は、永青文庫（細川家文書）
の歴史資料の目録作りと研究をしています。

教育学部

子どもたちから元気をもらい ともに成長する毎日です



福永 眞二

Shinji FUKUNAGA

熊本県立玉名高等学校
教諭

教育学部中学校教員養成課程
美術科 平成15年度卒/
大学院教育学研究科教科教育
専攻 平成17年度修了

昭和56年生まれ。熊本県宇
城市出身。熊本県立八代高等
学校卒業。絵画制作、美術館巡
りに加え、最近は体のことも
考えてマラソンも趣味の一つ
に。めざせサバ4!

熊大のココがイイ!

歴史と伝統があるだけで
なく、進行形で活躍して
いるところ。

あらゆる分野の美術に惹かれた 高校時代

高校時代から、絵を描くことはもとより、
デザインや建築、マンガにファッションと、
あらゆる分野の「美的表現」が好きで、「美
術にかかわって生きていきたい」と切実に
思っていました。デザイナー、作家、美術
教師と、職業に対する興味も多岐に渡り、「ク
リエイティブな事がしたい」という夢を持っ
ていました。

教育実習最終日に子どもたち 流した涙が決め手に

講義、制作、バイトの3つに追われる日々
でした。絵画室で夜遅くまで制作をしたり、
仲間と語り合ったことは今でもいい思い出
です。制作に夢中で、将来を明確に思い描
いていなかったのですが、教育実習最終日
に子どもたちと一緒に涙したことが決め手
になり、教師になることを決意しました。

子どもたちが生みだす美術にも 限りない魅力を感じる

現在、中高一貫校に勤務し、幅広い年齢
の生徒とかかわっています。生徒が生み出
す作品もそれだけ幅広く、答えのない「美術」
の魅力を感じる日々です。生徒の表情、声、
作品から元気をもらい、共に成長しながら
仕事に励んでいます。最近は受験を控えた
生徒の「自分を信じ、努力し、挑戦する」
姿に感動し、多くのことを学びました。

法学部

ふるさとのニュースや情報を 自らの言葉で伝える喜び



前畑 静香

Shizuka MAEJIMA

KYT 鹿児島読売テレビ
アナウンサー

法学部法学科公共政策コース
平成19年度卒

昭和61年生まれ。鹿児島県伊
佐市出身。伊佐市立大口高等
学校卒業。現在、KYT 鹿児島
読売テレビのニュース番組
「every.」(月～金の夕方放送)
の月・火・水を担当するほか、
毎週金曜日夕方の生放送情報
番組「かこビタ」の司会を担当。

熊大のココがイイ!

職員・学生が丸となり目
標に向かって全力で突き進
める環境があります!

高校の先生の一言がきっかけで 憧れの職を本気で目指す

「アナウンサーに向いているよ」。高校生
の時、担任の先生から言われた言葉がきっ
かけで、憧れていたアナウンサーという職
業を本気で目指すようになりました。受験
する大学を決める際、熊本大学のホームペ
ージで、当時法学部にマスコミ論を学べる講
座があることを知り、進学を志しました。

目標に向かって全力でがんばる 友人たちと切磋琢磨

大学の講義が終わるとアルバイトへ向か
うという毎日、週末は福岡のアナウンサー
学校に通いました。周りの友人が目標に向
かって全力でがんばる人ばかりで、切磋琢
磨しながら大学生活を送ることができまし
た。また、講義やゼミでは、アナウンサー
や新聞記者を招き直接話を聞く機会を設け
てもらったなど、恵まれた環境でした。

もっと心を磨いて 豊かな表現ができる伝え手に

地元のテレビ局で憧れの職業に就き、ふ
るさとのニュースや情報を自分の言葉で伝
えられる幸せを感じています。報道部に所
属し、日々現場に出て取材し原稿を書いて
キャスターとして伝えています。また、司
会を担当する3時間生放送の情報番組は、
立ち上げから携わりました。心を磨いて豊
かな表現ができる伝え手を目指したいです。

薬学部

教育と研究にいそしむ毎日 家庭と仕事の両立にも奮闘



倉原 琳

Rin KURAHARA

福岡大学医学部生理学教室
講師

薬学部薬科学科
平成12年度卒

昭和53年生まれ。中国内
蒙古自治区呼和浩特市出身。福岡
県立城南高等学校卒業。現在は二
人の子育てをしながら、社会
貢献できる新しい治療薬を開発
することを夢に奮闘中。

熊大のココがイイ!

薬学部正門近くにそびえ
立つクスノキの大木がバ
ワーを与えてくれます。

母親のように、 白衣を着る仕事に憧れて

医療関係者の家庭で育ち、小さい時から
母のような医師になりたいと漠然とした思
いを持っていました。高校の「ドリカムブ
ラン」の一環であるボランティア活動を通
じて、「人の役に立ちたい」という思いが日
に日に強くなり、白衣を着る仕事にますま
す憧れていきました。

仲間と一緒になら、 何もかも楽しかった大学生生活

今思えば、大学生活は人生で一番楽しい
4年間でした。仲間とともに授業、勉強、部活、
バイト、飲み会、旅行...何をしても楽しか
ったです。4年生で配属された薬理学研究室で
先輩たちの知識や実験技術のすごさに驚か
され、最高に明るい環境で研究を好きにな
ることができました。

論文博士の学位取得をきっかけに オリジナル研究テーマをスタート

大学卒業後すぐに福岡大学の助手として
就職し、実験補助として多くの研究を経験
しました。29歳の時の熊本大学薬学部での
博士号の取得をきっかけに研究費を獲得し、
自分の研究テーマをスタートさせることが
できました。教育・研究・家庭・育児のバラ
ンスを工夫した生活基盤の構築は、働く女
性研究者にとって最重要課題だと思います。

工学部

開発職からIP戦略グループへ 希望した部署で研鑽を積む毎日



齊藤 友紀

Yuki SAITO

日電工株式会社
豊橋事業所(愛知)

工学部物質生命化学科 平成
13年度卒/大学院自然科学研
究科物質科学専攻博士前期課
程平成15年度修了

昭和54年生まれ。大分県大分市
出身。小学校2年生で熊本県へ
引越、熊本県立第二高等
学校を卒業。旅行が好きで、
ほとんどの都道府県には行っ
た経験があるほど。旅先では、
事前にリサーチして店を訪れる
ほど、コーヒーやパンが好き。

熊大のココがイイ!

緑あふれるキャンパスと、
先生や学生とのすてきな
出会いがあるところ。

高校の数学の先生に刺激を受け、 かっこよく働く女性に憧れた

高校の数学の先生は、普段はやさしく、
授業では厳しい方でした。よく質問に行っ
て接するうちに、私も先生のように人から
信頼されかっこよく働く女性になりたいと
考えるように。漠然と、理系の分野で働か
たいと考えていたので、まずは大学進学が
第一歩だと思っていました。

一生大事にしたい出会いがあった 充実の学生生活

ほぼ毎日朝から晩まで授業があり大変で
したが、試験前は友人宅に泊まり込んで勉
強をしたり、旅行に行ったりと、友人と苦
楽を共にした楽しい毎日でした。アルバイ
トでは他大学の友人もでき、交流の幅が広
がりました。一生大事にしたいと思えるす
てきな先生や友人との出会いがあり、今で
も交流を続けています。

知的財産の知識や海外対応のため 常にスキルアップも忘れず

入社後、希望する開発職に就き、製品開
発に関する知識と経験を習得しました。5
年目からは自ら希望したIP戦略グループへ
異動し、事業部開発における知的財産業務
を行っており、開発での経験を生かしなが
ら日々奮闘中です。知的財産に関する知識
の習得や海外対応のための英語力など、ス
キルアップにも取り組んでいます。

REPORT

駐日ナイジェリア 特命全権大使が 原田学長を 表敬訪問しました

5月12日、ゴッドウィン・ンスデ・アボ駐日ナイジェリア特命全権大使及びエセシエン・ンテキム公使ら4名が本学を来訪し、原田信志学長、高島和希副学長（国際交流担当）を表敬訪問しました。

本学は、ナイジェリアからの留学生4名と外国人客員研究員1名を受け入れ、ナイジェリアと学術・学生交流をしています。今回の訪問では、ナイジェリアにおける大学教育の紹介や同大学の紹介を行いました。今後の交流促進について意見を交換し、今後とも良好な関係を発展させることで意見が一致しました。

表敬後には五高記念館を見学し、本学の歴史と恵まれた教育研究環境に大変興味を持たれた様子でした。



REPORT

本学キャンパス内で明治時代の 赤煉瓦積み基礎が発見されました

4月、埋蔵文化財調査センターの発掘調査により、本学黒髪南キャンパス本部棟周辺から、明治時代に建てられた校舎の赤煉瓦積み基礎が発見されました。

本学の本部棟は、1925年（大正14年）に熊本大学工学部の前身である熊本高等工業学校の本館として竣工しました。しかし、この建物が二代目であることはあまり知られていません。初代本館は、1908年（明治41年）に竣工した赤煉瓦積み基礎を持つ木造2階建の校舎でしたが、1922年（大正11）の火事で全焼したのです。翌年に起きた関東大震災を経て、木造ではなく、現在のコンクリート造りに建て替えられた経緯があります。

今回見つかったのは、この初代本館の建物の基礎部分で、西端と南側中央の張り出し部にあたります。建物の壁や階段、支柱を支える赤煉瓦積み基礎が複数個所で発見されただけでなく、1922年の火事の痕跡を示す灰や炭混じりの土、また、校舎の一部とみられる溶けたガラス片や焼けた木片なども出土しました。文献と考古学の所見が一致する興味深い事例です。

4月17・18日にはその成果の一部を現地説明会で説明し、約150人の参加者が集いました。今後も発掘調査から得た成果を基に、熊本大学の埋もれた歴史を明らかにします。



現地説明会の様子



発見された赤煉瓦積み基礎

REPORT

次世代育成支援対策推進法に係る 「くるみんマーク」(2回目)を取得

本学は、次世代育成支援対策推進法（次世代法）に係る基準適合一般事業主として認定され、子育てサポート企業の証である「くるみんマーク」を取得しました。これは、本学が平成24・25年度の2ヶ年で実施してきた一般事業主行動計画について、計画目標を達成するなど、一定の基準を満たしたことにより、平成25年2月（1回目）の認定に続き、今回2月27日付けで2回目の認定を受けたものです。就労と家庭生活の両立支援のため育児に関する相談窓口の設置や、ノー残業デーを設定しメール配信等で周知する等の取り組みが評価されました。

また、3月20日には、熊本労働局にて「認定通知書」交付式が行われ、八幡彩子熊本大学男女共同参画推進コーディネーターが一瀬壽幸熊本労働局長から認定通知書を受け取りました。熊本県内での認定は17例目で、2回目の「くるみんマーク」取得は県内初です。

また、3月20日には、熊本労働局にて「認定通知書」交付式が行われ、八幡彩子熊本大学男女共同参画推進コーディネーターが一瀬壽幸熊本労働局長から認定通知書を受け取りました。熊本県内での認定は17例目で、2回目の「くるみんマーク」取得は県内初です。



くるみんマーク



八幡彩子熊本大学男女共同参画推進コーディネーター（右から2番目）、一瀬壽幸熊本労働局長（中央）

REPORT

「第39回国立大学アイソトープ 総合センター長会議」を開催

6月3、4日山崎記念館にて第39回国立大学アイソトープ総合センター長会議が開催され、アイソトープ総合センター等を有する国立大学法人21校から66名が参加しました。尾池雄一生命資源研究・支援センター長、松本泰道研究担当副学長による挨拶の後、中島大輔氏（文部科学省学術機関課研究支援係長）及び宮本大氏（原子力規制庁放射線防護対策部放射線規制室係長）による講演があり、活発な質疑応答が行われました。その後、アイソトープ総合センターの在り方と今後の方向性についての討論、各参加校から現状報告と福島原発事故のサポート等の活動報告、岡田誠治アイソトープ総合施設長による生体イメージングの生命科学への活用に関する講演等がありました。アイソトープ総合センターは、放射線同位元素等を利用する教育・研究、安全管理等の総括と社会貢献を目的に熊本大学を含む国立大学21校に設立されたもので、学内の放射線管理の中核を担っています。



挨拶中の松本副学長



講演中の岡田アイソトープ総合施設長

REPORT

満屋裕明教授が「日本学士院賞」を受賞しました

生命科学研究部血液内科学分野の満屋裕明教授が、学術上特に優れた研究業績を挙げた研究者に贈られる、日本の学術賞としては最も権威あるとされる日本学士院賞を受賞し、平成27年6月1日(月)、天皇・皇后両陛下の行幸啓を仰いで東京・上野の日本学士院会館で授賞式が行われました。

満屋教授は「死に至る病」として恐れられていた AIDS に対する治療薬開発のための評価システムを確立し、治療薬の開発・研究を逸早く開始しました。

そのシステムを用いて、世界初の AIDS 治療薬 AZT を開発、世界 2 番目・3 番目の治療薬 ddI、ddC も見だし、更に薬剤耐性ウイルス変異株に強力な効果を持つ darunavir も開発、この治療薬は途上国への感染者に安い価格で提供されています。AIDS 治療の基本路線を決定づけ、治療薬を組み合わせる多剤併用療法の道も開拓したことが高く評価されたものです。



日本学士院・杉村隆院長から賞状・賞牌を授与される満屋教授



天皇・皇后両陛下に研究成果の御説明にあたった満屋教授

REPORT

「地下と地上の文化財散歩」を開催

文化財散歩は、発掘調査^{*}で明らかになったキャンパスの歴史を、現地を歩きながら追体験する催しです。今年は6月1日～4日、黒髪地区と本荘地区で実施しました。

黒髪地区では、大正11年に焼失した校舎の基礎が発見された本部棟周辺の発掘現場で進行中の調査の状況を説明し、埋蔵文化財調査センターで縄文時代から近代までの遺物を通して、学内の遺跡に関する解説を行いました。本荘地区では、古墳時代から奈良・平安時代の集落跡や昨年発見された江戸時代の水路跡を中心に現地を巡り、本荘北地区の遺跡とその移り変わりを、発見当時の遺構や遺物の写真パネルを使い、調査当時のエピソードを交えながら紹介いたしました。

期間中、学生・教職員・一般の方52名の参加がありました。参加者からは「実際の遺跡に触れることができ良い勉強になった」「雨乞いに牛を使うとは知らなかった」などの感想が寄せられました。今後も身近な歴史を体感できる機会を作っていきます。

^{*}熊本大学は県内有数の遺跡の上にあるため、学内の整備等で遺跡の破壊が避けられない場合、埋蔵文化財調査センターが事前に発掘調査を行っています。



本部棟周辺の発掘現場の解説(黒髪地区)



出土遺物の解説(埋蔵文化財調査センター展示室)



古代集落とヘラ書き土器の説明(本荘地区)

INFO

第13回中学生を対象とした夏休み自由研究に関する技術相談会

中学生が考えた研究テーマについて、熊本大学の教職員が相談員となって、工学部内の実験施設・設備を利用して自由研究のアドバイスをを行います。

〈開催日時・場所〉平成27年8月2日(日)9:00～17:00・工学部百周年記念館

〈参加対象者〉熊本県内の中学1・2年生

〈参加費〉無料

〈申込方法〉7月16日(木)17時までに、次の項目をご記入の上、FAX、郵送又は電子メールにてお申し込みください。(Webブラウザからも申し込み可能)
1. 電話番号、2. 住所、3. 氏名、4. 学校名、5. 学年、6. 希望の時間帯(午前 or 午後)、7. 研究テーマ、8. 相談したい内容

〈申込先〉〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1

熊本大学自然科学系事務ユニット総務担当(佐々木)宛

FAX: 096(342)3510

電子メール: soudan15@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp

〈問い合わせ先〉熊本大学工学部(担当:田中) 電話:096(342)3290 [702]

〈研究テーマについて〉あなたが考えた研究のお手伝いをします!!

HPには、参考研究テーマを載せています。

〈HP等のURL〉<http://www.tech.eng.kumamoto-u.ac.jp/soudankai/index.html>



INFO

女子中・高生の理系進路選択支援プログラム

「めざせ、理系キャリア!夢創り応援プロジェクト for ガールズ 2015」へ行こう!

女子中高生と保護者・教員を対象とし、「女子大学生や企業で活躍中の女性社会人の講演会」や「体験実習」を開催し、「理工系キャリアを目指すための夢創り」を応援することを目的とした企画です。7月から10月まで、充実したプログラムを実施します。

- ①聞いてみんな! みつけんね! 理系のロールモデル
7月20日(月) 13:00~16:30
- ②理系の体験実習 in 熊大&天草
「来てみなっせ! リケジョスクール」
A: 8月2日(日) 1日体験実習
B: 8月1日(土)~3日(月) 2泊3日合宿実習
- ③女子高校生のための進路相談会
8月8日(土) 9:30~15:00
- ④高校教員向けセミナー
「女子大生からの恩師へのメッセージ」
10月中旬開催予定 ※①と②は、事前申込が必要です。

プログラムの開催場所など、
詳しい内容は以下の URL よりご確認ください。
URL: <http://www.girls.kumamoto-u.ac.jp/>

【お問い合わせ】
熊本大学自然科学系事務ユニット(総務担当)
TEL:096-342-3494, 3513
FAX:096-342-3507



INFO

平成27年度ひらめき☆ときめきサイエンスプログラムの実施について(2課題)

研究機関で行っている最先端の科研費の研究成果について、小学生や高校生・高専生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラムです。

- ①学ぼう!作ろう!届けよう!おしゃべり6ピン点字器の全国寄贈ものづくり教室
- ②小学生対象~植物は面白い。甘みが消える葉、お茶の色が黒くなる等

〈開催日時・場所〉

- ①8月12日(水)・熊本大学工学部研究棟 IV 4階 4-8 プロジェクト室
- ②11月1日(日)・熊本大学薬学部 宮本記念館

〈参加対象者〉 ①高校生 ②小学生(5、6年生)

〈申込方法〉 ※事前申込が必要

(1) WEB 申込の方法

日本学術振興会 HP(<http://www.jsps.go.jp/hirameki/>) のメニューにある「実施プログラム一覧」のページから参加申込をクリックして、必要事項を入力

(2) 本学への直接申込

①住所:〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
TEL(FAX): 096(342) 3696
E-mail: hiratoki2015@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp
須惠 耕二(すえ こうじ) 熊本大学 工学部 技術部・技術専門職員
申込締切日:平成27年7月30日(木) ※定員を越えた場合は抽選

②住所:〒862-0973 熊本市中央区大江本町 5-1
TEL(FAX): 096(371) 4381
E-mail: yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp (1はイチです)
矢原 正治(やはら しょうじ) 熊本大学 薬学部客員教授・薬用資源エコフロンティアセンター
申込締切日:平成27年10月20日(火)

※申込の際は、下記の必要事項を記入のうえ、メール、FAX 等で送付してください。

1. 参加プログラム名・日付
 2. 氏名(フリガナ)
 3. 学校名・学年
 4. 性別
 5. 生年月日
 6. 連絡先住所(郵便番号)
 7. 電話番号、FAX 番号(無ければ空欄可)、
 - E-mail(無ければ空欄可、携帯メール記載の場合は受信拒否解除設定願います。)
 8. 保護者からの参加同意の有無
 9. 応募するにあたって聞きたいこと、知りたいこと等があれば記入(参加費) 無料
- (問い合わせ先)
熊本大学 マーケティング推進部 研究推進ユニット
TEL: 096(342) 3242
E-mail: gjk-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp
(HP 等の URL)
日本学術振興会ホームページ
<http://www.jsps.go.jp/hirameki/>
熊本大学ホームページ(研究のページに掲載予定)
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/kenkyuu>

◎携帯メール記載の場合は受信拒否解除設定願います。

INFO

もうすぐ夏休み! 熊本大学で自由研究の計画を立てよう

【第12回夏休み自由研究相談教室】

夏休みの自由研究で、研究の方法、調べ方、まとめ方などに困ったことはありませんか?
大学生と大学教員が自由研究の相談にお応えします。

日 時 / 7月26日(日) 10:00~15:00

場 所 / 教育学部理科棟 1F 1-B 講義室

対 象 / 小学生(保護者同伴)、中学生、小中学校教員

定 員 / 30名 参加費 / 無料

申し込み方法 / 相談内容・名前・住所・電話番号・学年をファックス、郵便、
電子メールのいずれかでお知らせください。

申し込み先 / 〒865-8555 熊本市中央区黒髪 2-40-1 教育学部地学図書室
Fax:096-342-2539 E-mail:rikakenkyu@educ.kumamoto-u.ac.jp

【問い合わせ】 Tel.096-342-2547(渡邊) URL: <http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~rika/>



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.30 (平成27年3月1日～平成27年5月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約6億151万円(平成27年5月31日現在)のご寄附をいただき、臨床医学教育研究センター建設や本学学生の留学支援、課外活動支援、60年史編纂事業等、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成27年3月1日から平成27年5月31日までの間に入金を確認させていただきました個人199名、10法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【360万円】	甲斐原 守夫(1800)			
【100万円】	一般財団法人化学及血清療法研究所(11800)			
【50万円】	堤化学株式会社(450)			
【20万円】	甲斐 広文(25)	高橋 誠一(130)	永芳 壽子(60)	
【10万円】	菊池 健(170)	古家 義朗(110)	宮家 隆次(40)	
	株式会社オレンジプロッサム			
【5万円未満】	上野 潔	志垣 信行	久野 啓介	松尾 敏之(8)
	松岡 潔	村上 健太郎(8)	渡邊 勉	
	小国町			

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

芥川 卓也[4]	浅山 滉[7]	飯田 浩二郎	伊佐 二久[7]	井芹 嘉久[4]	井上 吉弘[3]
今井 博昭[8]	今村 雄彦[3]	上田 京二[7]	上塚 昭逸[3]	上塚 高弘[4]	上村 順一[4]
衛藤 光明[9]	江藤 三喜男	大磯 秀明[6]	大磯 正剛[6]	大内田 務[2]	大迫 楽子[2]
大津 敬一郎	岡崎 廣行[2]	岡崎 美知治[5]	緒方 雅彦[2]	奥 一浩	奥村 恵一郎[3]
小山 浩嗣	影山 恵一	加藤 浩亮	川崎 明	神崎 芳郎[3]	岸川 秀樹[2]
北里 敏明[2]	北島 美則[4]	木村 純久[2]	草野 龍二[9]	久保田 敏昭[3]	高口 浩幸[2]
古賀 広志[2]	兒玉 泰治	佐伯 千恵子[6]	坂田 満生[9]	坂本 遼一[2]	紫藤 忠博[3]
嶋田 英剛[4]	嶋村 皓臣	首藤 莉奈	白神 勲[2]	瀬戸 致行[7]	前正 康志
武本 重毅[6]	田中 広信	恒松 千佳子	鶴田 奉征	直嶋 大助	中川 腴
中島 誠[3]	中原 和彦[3]	中原 文雄[2]	中邑 大猷	西田 光博	根岸 利雄[2]
野村 耕一[5]	橋口 治[7]	福岡 莞爾	福田 素子	藤崎 順子[7]	二塚 信[6]
堀野 敬[5]	牧野 耿介[4]	松岡 三正	丸野 健一郎	丸野 陽一[3]	蓑田 眞幸[9]
村井 重愛	村岡 洋	村瀬 弘幸	村端 秀映[3]	森田 浩一郎	両角 光男[6]
安永 忠正	柳瀬 美耶	山下 賢史	山本 英彦[2]	吉田 実[4]	吉永 公典
渡辺 清吉[2]					
医療法人秋津会徳田脳神経外科病院[3]			医療法人宇都宮クリニック		
医療法人社団愛育会福田病院[2]			医療法人社団永芳会永芳医院[4]		宇城総合病院

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人100名、1法人・団体等

REPORT

「第6回熊本大学東京連合同窓会」に201名が参加

第6回熊本大学東京連合同窓会が、平成27年5月30日(土)東京ガーデンパレスにおいて、関東地区の同窓生など201名の参加を得て開催されました。

当日は、前半に総会・講演会が、後半に交流会が行われ、総会・講演会では、今村遼平会長、二塚信熊本大学同窓会連合会会長による挨拶の後、役員等紹介、平成25年度、26年度の名誉フェロー及び卒業生表彰受賞者紹介が行われました。

講演会では、原田学長から「熊本大学の将来展望」と題した基調講演が、戸田敬熊本大学理学部理学科長から「熊本の大気・世界の空気をみる」と題した特別講演が行われました。

交流会では、古島幹雄熊本大学理事、本島昭男関西連合同窓会会長、安田宏正九州連合同窓会会長から祝辞が述べられた後、中野栄二副会長の発声で乾杯が行われ、参加者は賑やかに世代や学部を超えた交流を楽しみました。

会の中では、熊本県東京事務所の宮本真由美氏からの熊本県の活動紹介のほか、現役学生である西本徹応援団団長から“巻頭言”と“五高寮歌”が披露されました。閉会に際しては、神崎芳郎副会長からの挨拶で謝意が述べられ、盛況のうちに催事は終了となりました。



今村 遼平 東京連合同窓会会長

REPORT

今井博昭様へ谷口前学長から感謝状が贈られました

このたび、今井博昭様から熊本大学基金に対し、多額のご寄附をいただきましたことから、4月13日(月)、谷口前学長より特別栄誉会員の感謝状が贈られました。

今井様は、昭和34年に本学工学部土木学科を卒業されており、熊本大学の更なる飛躍のために役立ててもらいたいとお気持ちから、毎年、定期的にご寄附いただいております。

また、今井様には、感謝状と併せ「入神致用」の扁額が贈呈されました。



谷口前学長(左)、今井博昭様(右)

未来へのチカラ、ここから。

熊本大学 オープンキャンパス

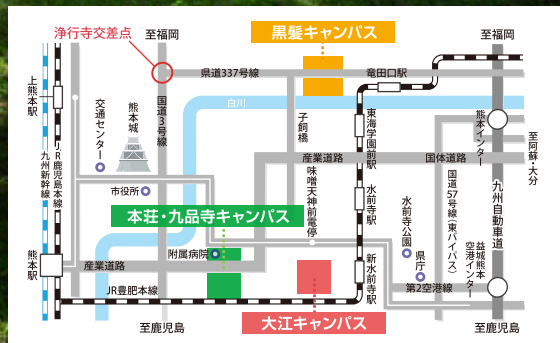
当日自由参加OK!

2015年8月7日(金)

本荘・九品寺・大江キャンパス
(医学部、薬学部)

2015年8月8日(土)

黒髪キャンパス
(文学部、教育学部、法学部、理学部、工学部)



熊本大学学生支援部入試ユニット
TEL.096-342-2146 FAX.096-345-1954
E-mail nyushi@jim.kumamoto-u.ac.jp
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

